
日雇いコリーの憂鬱な顛末

椎名

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

日雇いコリーの憂鬱な顛末

【Nコード】

N4003BA

【作者名】

椎名

【あらすじ】

日雇いコリーと、ある男。

（前書き）

ご閲覧頂き誠にありがとうございます。
本作はシリーズとなっておりますので、お手数ですが未読の方は先に前話をお読みください。

訳が分からない。俺はそう呟くと、がっくりと肩を落とした。煙草をくわえ、力なく空を見上げる。仕事を失敗したのはこれが初めてではなかったが、それと同じかそれ以上の新郎を感じていた。原因は分かっている。一週間前、依頼主であったリヒャルダ・ロットーがある少女に殺されたからだ。“アストルガ”と呼ばれていたその少女は、まぎれもなく賞金首のラウラだった。彼女の言っていた“白薔薇の錬金術師”という言葉の意味、そして復讐じみたラウラの言動。その全てが謎だらけだった。

「随分と浮かない顔だな、日雇いコリー。まさか、仕事の失敗で落ち込んでる訳はないだろ？ どうしたのさ？」

「……少し、気になる話を聞いたんでな。ジャック、お前、“白薔薇の錬金術師”って聞いたことあるか？」

俺が問いかけると、隣の席の同僚ジャックは顎に手を当てて低く唸った。情報通な彼なら知っていそうだと思うのだが、やはり無理かと内心焦る。

「白薔薇……はよく分からないが、錬金術師ならそれらしい話はあるな。確かここから西にある“スターダスト・レスト星屑の休憩所”の周辺の森にある古ぼけた屋敷に、錬金術師を名乗る男が住んでいたはずだよ。名前は……えっと、なんとかレティって言っただけ……。すまない、どうも最近物覚えが悪くてね」

「いや、十分だ。ありがとなジャック、助かった」

俺が礼を言っただけで立ち上がると、ジャックはにこやかに微笑んで手を振った。その手には領収書が握られている。情報代としておごれということか。俺は気づかれないようにため息を吐くと、それを受け取って支払いを済ませた。ジャックが満面の笑みを浮かべてこちらに手を振る。今度は分かるように大きなため息を吐いてみせた。すると、ジャックが肩をすくめておどけてみせる。彼の動作に疲れ

がどつと押し寄せてきたため、俺はその場をあとにした。

「星屑の休憩所か……。今出れば着くのは夜だな。??少し散策でもするか」

俺は時計を軽く見やると、近くに立てられた案内板の前に立った。特に行きたい場所はないが、たまには気ままに歩いてみるのもいいだろう。最近大変なことばかりだったから、柄にもなくそんな気分になったのだと思った。

それにしても、ジャックの情報網には脱帽した。諦め半分で聞いてみたのだが、思わぬ収穫が得られた。流石は情報屋と言ったところか。

「となると、あのぬかりないジャックが人名を忘れたのは奇跡だな」
錬金術師を名乗るレティという人物の名字を、彼は覚えていなかった。彼に少しでも人間らしい要素があったことが驚きだ。俺のジャックに対する印象というのは、もっと超人的で理解しがたいものだった。しかし、今回のことで少しだけ印象が変わった。これで、俺の中で理解できない部類の人間は一人になった。

「賞金首のラウラ、か……」

俺は彼女と出会った酒場に貼られた賞金首の紙を見て呟いた。この前の依頼主であったリヒャルダ・ロットーからはアストルガと呼ばれていたが、それが彼女の姓名で間違いないのだろうか。賞金首ともなれば、名前を偽っていたとしても何らおかしくはない。むしろその方が自然だ。

「なんであいつ、あんなことを……」

一週間前に起きた事件以来、彼女は俺の前に姿を現さなかった。恐らくその『レティ』という人物のもとで再会することになるのだろうか、あまり気乗りはしない。できればもっと穏やかなシチュエーションで出会いたかった。しかし、それは無理そうだ。

「復讐、か……。考えたくはないが」

恐らく、ラウラは身内の復讐のために動いている。しかもその対象者は複数のようだ。「次は」と言っていたということは、“白薔

“ 薔の錬金術師 ” 以外にもまだいるのだろう。 およそ三、 四人といったところか。

ここまで関わってしまったからには、 もう他人のままではいられないだろう。 俺は覚悟を決めると、 煙草の煙を夕空に吐き出した。

(後書き)

お読み頂き誠にありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4003ba/>

日雇いコリーの憂鬱な顛末

2012年1月11日05時58分発行